

## 2020年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年1月10日

上場会社名	株式会社ビットワングループ	上場取引所	東
コード番号	2338	URL	<a href="https://www.bitone-g.co.jp/">https://www.bitone-g.co.jp/</a>
代表者	(役職名)代表取締役	(氏名)木村 淳一	
問合せ先責任者	(役職名)取締役管理部長	(氏名)村山 雅経	(TEL)03(6910)0571
四半期報告書提出予定日	2020年1月10日	配当支払開始予定日	-
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 無		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年2月期第3四半期の連結業績(2019年3月1日~2020年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第3四半期	355	△26.4	△252	-	△262	-	△273	-
2019年2月期第3四半期	482	△42.5	△296	-	△344	-	△752	-

(注) 包括利益 2020年2月期第3四半期 △269百万円 (-%) 2019年2月期第3四半期 △781百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第3四半期	△32.78	-
2019年2月期第3四半期	△108.71	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第3四半期	1,095	1,044	92.4
2019年2月期	576	506	83.7

(参考) 自己資本 2020年2月期第3四半期 1,012 百万円 2019年2月期 482 百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2020年2月期	-	0.00	-	-	-
2020年2月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年2月期の連結業績予想(2019年3月1日~2020年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	659	6.5	△242	-	△248	-	△249	-	△30.96	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 - 社(社名) - 、除外 - 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年2月期3Q	10,812,361株	2019年2月期	8,081,987株
2020年2月期3Q	38,400株	2019年2月期	38,400株
2020年2月期3Q	8,351,374株	2019年2月期3Q	6,919,150株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の回復や経済・金融政策による下支えによる企業収益や雇用環境の改善等を背景に穏やかな回復の兆しが見られましたが、海外情勢・経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動による影響が懸念されており、我が国の景気を下押しするリスクは依然として含まれております。

このような状況のもと、当社グループは、新規事業として仮想通貨交換所運営事業のグローバル展開を通じ、事業基盤の更なる強化を図ってまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間につきましては、売上高355百万円（前年同期比26.4%減）、営業損失252百万円（前年同期は営業損失296百万円）となりました。経常損失は262百万円（前年同期は経常損失344百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は273百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失752百万円）となりました。

セグメント別の売上高は、以下のとおりであります。（セグメントの業績については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。）

## (フィンテック事業)

当事業におきましては、仮想通貨交換所運営事業を中心とした仮想通貨関連の事業を行っております。仮想通貨は2018年においては、その時価総額並びに相場環境が低迷を続けておりましたが、2019年4月よりビットコインを筆頭として急激にその時価総額並びに相場環境が改善いたしました。そのような状況の下、当社グループの香港における仮想通貨交換所において、2019年5月以降、継続的なプロモーションにより、新規ユーザーの登録数に急激な増加が見られました。それに伴い仮想通貨交換所の取引高の増加がある程度見られ、売上も上がり始めましたが、業績を回復するには至りませんでした。その結果、売上高は10百万円（前年同期比31.1%減）、売上構成比は2.3%となりました。セグメント損失(営業損失)は128百万円となり、前年同四半期と比べ124百万円（前年同期は252百万円の営業損失）の改善となりました。

## (システムソリューション事業)

当事業におきましては、新規案件の開拓、対応を進めておりますが、業績を改善するに至っておりません。その結果、売上高は134百万円（前年同期比38.1%減）、売上構成比は29.9%となりました。セグメント利益(営業利益)は88百万円となり、前年同四半期と比べ57百万円（前年同期比39.6%減）の減益となりました。

## (アイラッシュケア事業)

当事業におきましては、社員の離職により、サロン店舗の稼働能力が低下したことや、商材販売の減少により、前年同期と比較して、売上高が減少しております。また、自社化粧品・健康食品を中心にメディア露出・展示会への出展を行い、知名度の向上、販路拡大への施策を行ったため、その施策のための販売管理費が増加しております。その結果、売上高は304百万円（前年同期比19.7%減）、売上構成比は67.9%となりました。セグメント損失(営業損失)は25百万円となり、前年同四半期と比べ74百万円（前年同期は49百万円の営業利益）の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて505百万円増加し、1,066百万円となりました。これは、主に現金及び預金が553百万円増加し、前払費用が20百万円及びその他流動資産が28百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて14百万円増加し、29百万円となりました。これは、主に差入保証金が13百万円増加したことなどによります。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて519百万円増加し、1,095百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて19百万円減少し、35百万円となりました。これは、主に未払法人税等が3百万円、預り金が6百万円及びその他流動負債が5百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1百万円増加し、15百万円となりました。これは、退職給付に係る負債が3百万円減少し、その他固定負債が4百万円増加したことなどによります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて537百万円増加し、1,044百万円となりました。これは、主に資本金と資本剰余金がそれぞれ400百万円ずつ増加し、利益剰余金が273百万円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年10月10日に公表した業績予想から修正はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	386,260	939,923
受取手形及び売掛金	57,579	57,909
商品及び製品	56,585	58,794
仕掛品	1,080	218
前払費用	30,405	9,615
その他	62,238	33,318
貸倒引当金	△33,702	△33,654
流動資産合計	560,447	1,066,124
固定資産		
投資その他の資産		
差入保証金	15,579	28,852
破産更生債権等	152,729	152,729
その他	53	793
貸倒引当金	△152,729	△152,729
投資その他の資産合計	15,633	29,646
固定資産合計	15,633	29,646
資産合計	576,081	1,095,771
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,965	2,358
未払金	21,928	20,418
未払法人税等	5,706	2,677
預り金	16,537	9,623
その他	6,025	736
流動負債合計	55,163	35,814
固定負債		
退職給付に係る負債	13,701	10,653
その他	256	4,856
固定負債合計	13,958	15,509
負債合計	69,121	51,324

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,009,711	2,409,711
資本剰余金	1,601,735	2,001,735
利益剰余金	△3,068,543	△3,342,325
自己株式	△58,994	△58,994
株主資本合計	483,909	1,010,128
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,571	2,445
その他の包括利益累計額合計	△1,571	2,445
新株予約権	25,322	32,574
非支配株主持分	△700	△700
純資産合計	506,959	1,044,447
負債純資産合計	576,081	1,095,771

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)
売上高	482,600	355,208
売上原価	171,514	86,643
売上総利益	311,086	268,565
販売費及び一般管理費	607,825	521,101
営業損失(△)	△296,739	△252,536
営業外収益		
受取利息	176	6
受取配当金	0	0
貸倒引当金戻入額	4,796	53
違約金収入	11,680	-
その他	2,997	3,611
営業外収益合計	19,651	3,672
営業外費用		
支払利息	1,971	490
為替差損	1,264	1,856
仮想通貨差損	6,847	1,397
支払手数料	56,649	9,250
その他	790	933
営業外費用合計	67,522	13,927
経常損失(△)	△344,609	△262,791
特別利益		
固定資産売却益	-	5,033
子会社株式売却益	32,968	-
特別利益合計	32,968	5,033
特別損失		
減損損失	460,618	12,775
その他	70	-
特別損失合計	460,688	12,775
税金等調整前四半期純損失(△)	△772,330	△270,533
法人税、住民税及び事業税	5,368	3,248
法人税等合計	5,368	3,248
四半期純損失(△)	△777,699	△273,781
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△25,535	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△752,163	△273,781



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)
四半期純損失(△)	△777,699	△273,781
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△3,457	4,016
その他の包括利益合計	△3,457	4,016
四半期包括利益	△781,157	△269,764
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△755,621	△269,764
非支配株主に係る四半期包括利益	△25,535	-

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

#### (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において売上高が著しく減少し、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しており、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第3四半期連結累計期間においても、売上高が減少し、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

「フィンテック事業」では、海外の仮想通貨交換所において、新規口座の開設及び取引高を増やすため、当社グループ交換所で取扱う取引通貨の選別や新規サービスの追加及びマーケティング活動の強化及び仮想通貨に関わるコンサルティング事業等を行い、仮想通貨交換所として競争力のあるサービスの提供を目指してまいります。

「システムソリューション事業」では、引き続き、新規顧客の開拓及び新規サービスの企画・立上げに努め、顧客満足度の高いサービスやソリューションを提供してまいります。

「アイラッシュケア事業」では、まず、施術者の採用活動の強化を行い、サロン店舗における体制作りを行います。それに加え、スタッフのトレーニングを行い、商品知識とお客様のニーズにあった提案力を高め、顧客コミュニケーション能力、販売力の向上を図るとともに新サービス紹介やエクステデザインの提案等をSNSで情報発信することにより店舗への来店喚起を強化してまいります。また、本事業においては、従来、まつ毛エクステなどの商材の販売をB to Bで行っていましたが、それに加え、B to Cで販売する基礎化粧品を中心とした化粧品の取扱いを開始いたしました。これらにより、売上の拡大を図ってまいります。

これら今後必要となる事業資金の確保については、当第3四半期連結会計期間で第2回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第9回新株予約権の発行により調達しました資金や手元資金で、対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日至2018年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、2018年3月27日付で、KINGDOM CAPITAL RESOURCES LIMITED、2018年5月9日付で遠南企業股分有限公司からそれぞれ新株予約権の権利行使を受け、新株の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ278百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,762百万円、資本剰余金が1,354百万円となっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

当第3四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使により、資本金が400百万円、資本準備金が400百万円増加いたしました。当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,409百万円、資本剰余金が2,001百万円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日至2018年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	フィンテック事業	システムソリューション事業	アイラッシュケア事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	14,811	87,833	379,956	482,600	-	482,600	-	482,600
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	128,758	-	128,758	-	128,758	△128,758	-
計	14,811	216,591	379,956	611,359	-	611,359	△128,758	482,600
セグメント利益又は損失(△)	△252,510	145,999	49,351	△57,158	-	△57,158	△239,580	△296,739

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△239,580千円は、セグメント間取引消去△128,758千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△110,821千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「フィンテック事業」セグメントにおいて、マイニング事業を行っておりますが、仮想通貨取引量の減少及び仮想通貨相場下落等により、マイニングシェアを確保することが出来ず、想定通りの収益を得ることができませんでした。このような状況を踏まえ、マイニング事業に関連する事業用資産の全額を回収することは困難と判断し、特別損失を計上することといたしました。当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては460,618千円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	フィンテック事業	システムソリューション事業	アイラッシュケア事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,699	43,537	304,971	355,208	-	355,208	-	355,208
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,500	90,615	-	94,115	-	94,115	△94,115	-
計	10,199	134,152	304,971	449,323	-	449,323	△94,115	355,208
セグメント利益又は損失(△)	△128,461	88,159	△25,023	△65,325	-	△65,325	△187,210	△252,536

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。  
 2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△187,210千円は、セグメント間取引消去△94,115千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△93,095千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「システムソリューション事業」セグメントにおいて、事業用資産の全額を回収することは困難と判断し、減損損失を計上いたしました。

なお、当該減損損失計上額は、当第3四半期連結累計期間においては1,753千円であります

「アイラッシュケア事業」セグメントにおいて、事業用資産の全額を回収することは困難と判断し、減損損失を計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては11,022千円であります。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において売上高が著しく減少し、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しており、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第3四半期連結累計期間においても、売上高が減少し、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

「フィンテック事業」では、海外の仮想通貨交換所において、新規口座の開設及び取引高を増やすため、当社グループ交換所で取扱う取引通貨の選別や新規サービスの追加及びマーケティング活動の強化及び仮想通貨に関わるコンサルティング事業等を行い、仮想通貨交換所として競争力のあるサービスの提供を目指してまいります。

「システムソリューション事業」では、引き続き、新規顧客の開拓及び新規サービスの企画・立上げに努め、顧客満足度の高いサービスやソリューションを提供してまいります。

「アイラッシュケア事業」では、まず、施術者の採用活動の強化を行い、サロン店舗における体制作りを行います。それに加え、スタッフのトレーニングを行い、商品知識とお客様のニーズにあった提案力を高め、顧客コミュニケーション能力、販売力の向上を図るとともに新サービス紹介やエクステデザインの提案等をSNSで情報発信することにより店舗への来店喚起を強化してまいります。また、本事業においては、従来、まつ毛エクステなどの商材の販売をB to Bで行っていましたが、それに加え、B to Cで販売する基礎化粧品を中心とした化粧品の取扱いを開始いたしました。これらにより、売上の拡大を図ってまいります。

これら今後必要となる事業資金の確保については、当第3四半期連結会計期間で第2回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第9回新株予約権の発行により調達しました資金や手元資金で、対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。